

### 特定外来生物等専門家会合で特定外来生物に指定することが適当とされた外来生物の概要

種類名	学名	評価の理由
ハナガメ ハナガメとニホンイシガメの 交雑により生じた生物 ハナガメとミナミイシガメの 交雑により生じた生物 ハナガメとクサガメの交雑に より生じた生物	<i>Mauremys sinensis</i> <i>M. sinensis</i> × <i>Mauremys japonica</i> <i>M. sinensis</i> × <i>Mauremys mutica</i> <i>M. sinensis</i> × <i>Mauremys reevesii</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本各地で逸走個体が確認。野外越冬も可能で、定着可能。</li> <li>幼体が輸入され安価で販売されているが、寿命が長く（数十年）、比較的大型になり、個人での終生飼育は相当に困難。</li> <li>ニホンイシガメ等との交雑事例が知られており、イシガメ科の日本在来種と交雑するおそれ。</li> </ul>
スウィンホーキノボリトカゲ	<i>Japalura swinhonis</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本でも既に定着し、繁殖しており、今後高密度化または分布拡大のおそれ。</li> <li>分布拡大した場合、在来の生態系に被害を及ぼすおそれがあることから、早期の排除が必要。</li> </ul>
ジョンストンコヤスガエル	<i>Eleutherodactylus johnstonei</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外の各地で定着して捕食や競合により生態系への被害が発生。</li> <li>日本に侵入すれば、定着して在来の生態系に被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>
オンシツガエル	<i>Eleutherodactylus planirostris</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フロリダ半島に広く定着し、捕食や競合により生態系への被害が発生。</li> <li>日本に侵入すれば、定着して在来の生態系に被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>

アジアジムグリガエル	<i>Kaloula pulchra</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 台湾では外来種として定着するなど、関東以西の温暖な地域に放された際には定着可能と想定。</li> <li>▪ 日本では、観葉植物などに混入して空港で発見される事例が相次いでいる。</li> <li>▪ 定着すれば在来の生態系に被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>
ヘリグロヒキガエル	<i>Bufo melanostictus</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 日本に放された際には、沖縄をはじめとする南西諸島、小笠原諸島などに定着するおそれ。</li> <li>▪ 輸入物資等への混入事例のもっとも多い両生類であり、観葉植物などに混入して日本の空港で発見される事例が相次いでいる。</li> <li>▪ 仮に定着すれば高密度化して、在来の生態系に被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>
ブラウンブルヘッド	<i>Ameiurus nebulosus</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 海外では在来種の地域的な絶滅を引き起こしている。</li> <li>▪ 低水温に耐性があり、卵や仔魚の保護を行うため在来種よりも優位に増殖する可能性。</li> <li>▪ 特定外来生物のチャネルキャットフィッシュと類似の生態で、定着して捕食や競合により、在来の生態系に大きな被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>
フラットヘッドキャットフィッシュ	<i>Pygodictis olivaris</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 海外では絶滅危惧種を含む在来種の減少を引き起こしている。</li> <li>▪ アメリカ合衆国の中にも非分布域があり、国内由来の外来種として最も悪影響が大きい種の一つと言われている。</li> <li>▪ 低水温に耐性があり、卵の保護を行うため在来種よりも優位に増殖する可能性。</li> <li>▪ チャネルキャットフィッシュと類似の生態で、定着して捕食や競合により、在来の生態系に大きな被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>

ホワイトパーチ	<i>Morone americana</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外では在来種と置き換わったほか、肉食性魚類の成長率が低下。</li> <li>・ 海外では漁業対象種を減少させ、地域の漁業に大きな被害が発生。</li> <li>・ 低水温に耐性があり、卵や仔魚の保護を行うため在来種よりも優位に増殖する可能性。</li> <li>・ ストライプトバスなどと類似の生態で、定着して捕食や競合により在来の生態系に大きな被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>
ラッフ	<i>Gymnocephalus cernuus</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外では在来種の地域的な絶滅を引き起こしている。</li> <li>・ 低水温に耐性があり、国内に定着できる可能性。</li> <li>・ 環境悪化や環境変化に耐性があり、繁殖能力も高いため、定着すれば短期間で増殖し、在来の生態系に被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>
ラウンドゴビー	<i>Neogobius melanostomus</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外では競合や捕食によって在来の生態系への被害が発生。</li> <li>・ 低水温に耐性があり、国内に定着できる可能性。</li> <li>・ 汽水域まで生息可能、海を通じて分布拡大する可能性があり、定着して捕食や競合により、生態系に大きな被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>
ヨーロッパナマズ	<i>Silurus glanis</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外では捕食によって在来種の地域的な絶滅を引き起こし、在来の生態系への被害が発生。</li> <li>・ 低水温に耐性があり、国内に広く定着できる可能性。</li> <li>・ 汽水域まで生息可能で、海を通じて分布拡大する可能性。</li> <li>・ 世界最大の淡水魚で、どう猛な捕食者であるため、国内に定着した場合、生態系に大きな被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>

<p>パイク科 パイク科に属する種間の交雑 により生じた生物</p>	<p><i>Esocidae spp.</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外では競合や捕食によって在来の生態系に被害を及ぼしている種がある。</li> <li>・ 低水温に耐性がある場合が多く、国内に定着できる可能性。</li> <li>・ 特定外来生物のノーザンパイクなどと類似の生態で、定着して在来の生態系に被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>
<p>ガンブシア・ホルブローキ</p>	<p><i>Gambusia holbrooki</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外では絶滅危惧種を含めた在来種の減少を引き起こすなどして生態系への被害が発生。</li> <li>・ 低水温に耐性があり、仔魚の状態の子を産むため在来種よりも優位に増殖する可能性あり。</li> <li>・ 国内外の広い範囲で被害を及ぼしている特定外来生物のカダヤシと類似の生態で、捕食や競合により在来種を駆逐するなどして生態系に大きな被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>
<p>ナイルパーチ</p>	<p><i>Lates niloticus</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外で在来の生態系に被害を及ぼしており、特にビクトリア湖では競合と捕食によって固有のカワスズメ属魚類を200種も絶滅させた。</li> <li>・ 南西諸島で定着する可能性が高い。</li> <li>・ 大型化し、捕食によって在来の生態系に大きな被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>
<p>オオタナゴ</p>	<p><i>Acheilognathus macropterus</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内の一部地域で在来タナゴと置き換わるなどの被害が発生。</li> <li>・ 分布拡大によって、国内に生息する絶滅危惧種のタナゴへの生態的、遺伝的な攪乱が起こる可能性。</li> </ul>

コウライギギ	<i>Tachysurus fulvidraco</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 霞ヶ浦を含む利根川水系で定着している。</li> <li>▪ チャネルキャットフィッシュと生態が類似していることから、在来の生態系に被害を及ぼすおそれ。</li> <li>▪ 分布拡大によって絶滅危惧種や固有種のギギ科魚類の遺伝的な攪乱が起こる可能性。</li> <li>▪ 鱗に棘を持つため、漁業被害を及ぼす可能性。</li> </ul>
<p>ガー科 ガー科に属する種間の交雑により生じた生物 &lt;平成30年2月に指定&gt;</p>	<i>Lepisosteidae spp.</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 日本各地で遺棄されたと思われる個体が確認。野外での越冬も可能で、定着可能と想定。</li> <li>▪ 数十年にも及ぶ寿命を持ち、全長1~2mと大型になる。</li> <li>▪ 肉食性で大型化するため、捕食によって在来の生態系に被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>
ビーチグラス	<i>Ammophila arenaria</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 日本に未侵入だが、海外では侵略的な外来種で、日本に導入された場合、海岸砂丘に生育する在来植物と競合し、駆逐するおそれ。</li> <li>▪ 海水で分布を拡大すること等から、海岸域の生態系を改変し、海岸砂丘等に生息する在来動物の生息環境に影響。</li> </ul>
ツルヒヨドリ	<i>Mikania micrantha</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ つるで絡みついて厚い藪を形成しながら林冠を覆うよう繁茂。</li> <li>▪ 海外で侵略的で、小笠原諸島や南西諸島の固有の在来植物と競合し、駆逐するおそれ。</li> <li>▪ 今後の分布拡大により在来の生態系に大きな被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>

ナガエモウセンゴケ	<i>Drosera intermedia</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 湿地の絶滅危惧種と競合、駆逐し、絶滅危惧種を含む在来種の遺伝的攪乱を起こす可能性。</li> <li>▪ 在来の生態系に大きな被害を及ぼすおそれ。</li> <li>▪ 意図的に植えられたものが問題であり、早期の排除、拡散防止が必要。</li> </ul>
エフクレタヌキモ	<i>Utricularia inflata</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ため池や湿地の希少な水生植物と競合し、駆逐するおそれ。</li> <li>▪ 外来のタヌキモ類の中で、特に生態系への影響が深刻。</li> <li>▪ 水面だけでなく水底近くにまで繁茂し、水生の生物相への影響が大きく、防除が困難。</li> <li>▪ 分布が拡大した場合、在来の生態系に大きな被害を及ぼすおそれ。</li> </ul>